○

山本家・リビング

山本さくら（２４）、クーラーの効いた部屋で扇風機に当たりながら、お菓子を食べてテレビでドラマを見ている。ふくよかな体系で、寝巻きを着て、服の上にもお菓子のカスが落ちている。

ドラマはＣＭに入る。ＣＭでは、ダイエット器具の通販ＣＭが流れる。

女性Ａ（ＣＭ）「これから夏本番に差し掛かる今、服は薄着になり、海やプールへ行く機会が増えれば気になるの事といえばなんですか？」

女性Ｂ（ＣＭ）「やっぱり、私たち女性にとっては、ボディーラインじゃないですか？」

女性Ａ（ＣＭ）「そうですよね？」

さくら、お菓子を食べる手を止める。

女性Ｂ（ＣＭ）「そうなんですよ。休みの日なんかは、外に出ずに部屋でクーラーを付けて、撮り溜めたドラマなんかを観ながら、ついついお菓子なんかを食べちゃうんですよ」

さくら、口に入れてたお菓子を手に出す。

女性Ｂ（ＣＭ）「そうしたら私、以前よりも少し体重が増えちゃったんです！」

女性Ａ（ＣＭ）「かと言って、この暑さじゃ外に出て運動なんてしたくないですよね？」

女性Ｂ（ＣＭ）「そうなんですよ！」

女性Ａ（ＣＭ）「そんな、夏本番のために痩せたい！　でも、外には行きたくない！　そんな皆様にとっては朗報です！」

女性Ｂ（ＣＭ）「（テンションを上げて）何ですか？」

女性Ａ、ランニングマシーンを見せ、

女性Ａ（ＣＭ）「こちらです！」

女性Ｂ（ＣＭ）「ランニングマシーンですか？」

女性Ａ（ＣＭ）「そうなんです。こちら、ランニングマシーンなんですが、これが凄いんです！　まずこちら、かなりの多機能になっておりまして、スピードはマック

スで時速１０キロメートルまで対応。平地から坂道まで調整可能なんです。さらに、組み立ても簡単で、折りたたみ式になっておりますので、場所もとりません。どうですか？」

女性Ｂ（ＣＭ）「折りたためるというのはすごく助かりますね！　でも私、家がマンションなんで他の部屋の人の迷惑にならないか心配なんですけど…」

女性Ａ（ＣＭ）「ご安心ください！　こちら振動を吸収する作りになっておりまして、動作音もかなり小さくなっておりますので、ご近所さんにご迷惑をかけることはございません！」

さくら、呆然とテレビを見ていると、スマホが鳴る。スマホを確認すると、しょーごから『今日の夜、ウチ来る？』とメッセージが入っている。

さくら、直ぐに返信しようとすると、

女性Ｂ（ＣＭ）「でも、お高いんでしょ？」

さくら、テレビを見る。

女性Ａ（ＣＭ）「通常、２万７千８００円なんですが、今から３０分以内にお電話いただいた方に限り、なんと一万円引きの１万７千８００円でご提供させていただきます！」

女性Ｂ（ＣＭ）「安ーい！」

女性Ａ（ＣＭ）「さらに、全国どこでも送料は無料です。ただし、今から３０分以内のお電話の注文に限らせてもらいます」

画面の下には、電話番号が表示されている。

さくら、急いでスマホで電話をかけようとするが、部屋の中を見渡す。部屋には、服のかけられたエアロバイク、埃をかぶっているダンベル、封の切られていないダイエットサプリが置かれている。

さくら、ゆっくりとスマホを閉じ、太も

もの上に置く。

○　村上家・玄関（夜）

インターホンが鳴り、村上将吾（24）、歩いて玄関に向かって来る。サンダルを履き、玄関を開けると、汗だくのさくら、食品の入ったエコバックとカバンを持って立っている。

さくら「そんなに暑かった？」

将吾「入って来て、直ぐに玄関に向かう。玄関の鍵を閉め、さくらを追いかける。」

○　同・リビング（夜）

部屋はきっとぱなし。扉は開きっぱなしで机にエコバックを置き、さくら「涼しい！」

将吾「入って来て、扉を閉め、さくら「閉めてよ、」

将吾「ごめん、ごめん。てか、部屋片付けたら？」

さくら「そう？気づいた？」

将吾「気づいたくらで」

さくら「最近ずっとスマホ家電買ったんだよ」

将吾「机の上に置いてあるこれ、携帯の充電器にもなるし、スピーカーにもなるし、写真縦に見えて本当はさくらもへるの？」

将吾「それ、近くの丸い布の椅子をさくらに見せる。」

将吾「これは、普通の椅子に見えて実は足のマッサージ機だし」

さくら「ふーん」

将吾「それで」

さくら「（冷めた感じで）いくつあんの？」

将吾「その話、長くなる？」

さくら「どうして？」

将吾「お風呂入りたいんだけど」

さくら「あぁ、そうだよね。シャワーでもいい？」

将吾「なにこんなに暑いのに、湯船なんて入らないよ」

さくら「じゃあ、いつでもいいよ」

さくら「あり がとう」

さくら、荷物を持ってお風呂場に向かう。

○同・お風呂場

さくら、棚に荷物を置き、棚からバスタオルを取る。少しあたりを見渡して、

さくら「（大きな声で）ねぇ、バスマットは？」

将吾の声「棚に立てかけてあるでしょ？」

さくら、棚の方を見ると、お洒落な青色のバスマットが立てかけられている。

さくら「（大きな声で）この青いの？」

将吾の声「そう！」

さくら、バスマットを敷き、その上で服を脱ごうとすると、

将吾の声「ううわー！」

さくら「どうしたの？」

さくら返事はない。急いでリビングに戻る。

○同・リビング（夜）

将吾、尻餅をついて地面にスマホを落としている。

さくら「何？」

将吾、スマホを指差す。

さくら、スマホを拾ってみると、画面には『スマート体重計』という表示とともに、青色のバスマットが表示されており、

『73・4kg』と表示されている。

さくら「きゃー！」

さくら、スマホを地面に落とす。